

### 1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070200854		
法人名	医療法人 若愛会		
事業所名	グループホーム けやきの杜		
所在地 (電話番号)	北九州市若松区西小石町17-27 (電話) 093-751-1020		
評価機関名	財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成20年2月19日	評価確定日	平成20年3月26日

【情報提供票より】(20年1月21日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	22 人	常勤 15 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 4.8 人	

(2) 建物概要

建物形態	併設 / (単独)		新築 / 改築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3 階建ての	1 階 ~	3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有 (円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 300,000 円 無	有りの場合 償却の有無	(有) 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,400 円		

(4) 利用者の概要 (1月21日現在)

利用者人数	27 名	男性	5 名	女性	22 名
要介護1	4 名	要介護2	11 名		
要介護3	8 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低 69 歳	最高	105 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	戸畑共立病院・若戸病院・田中歯科
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設時に職員で作上げた理念を日々のケアと結びつけ、介護計画を作成、実施、評価し、質の向上に努めている。昨年の外部評価は、すべて目標に達していたが、家族アンケートの評価に問題意識を持ち、新たな課題を見出し取り組む努力が伺える。ホーム玄関まわりの整備において、新たに手すりを設置し利用しやすくなったが、わかりやすい表示方法の工夫は今後も検討してほしい。これまで、入居中の方だけでなく入居待ちの方に対して、ホームの多機能性を活かした支援は評価も高く、地域からも認められる存在となっており、今後もぜひ継続していただきたい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>特に改善課題はなかった。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価結果の掲示や職員への配布を今年度も実施していたが、そのほか職員が記載した自己評価結果を職員の指導に活かしたり、運営推進会議で報告し、その課題について地域の方と共有・検討を行い、その結果を広報誌で公開するなど、評価を活かしながら、取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>2ヶ月に1回定期的に会議を開催し、民生委員や地域包括の職員、さらに入居者やその家族に対して、ホームの入居者の状況や行事内容、事故対策、苦情処理など詳細に報告し、そこで出された意見などを、サービスの向上に活かしている。また、行政との連携を図るために、積極的に研修会に参加したり、講演を依頼するなどしている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>家族の訪問時や、お便りなどの配布を通して、家族の意見や要望などを汲み取れるように努力している。家族アンケート結果についても、なぜそのように感じているのかなど、職員で話し合い、課題を見出し、具体的に取り組んでいる。苦情対応などについても、事業所のみならず地域にも運営推進会議等で公表している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>これまでは、家族の方を対象にした介護教室や、デイサービス利用者に参加していただく健康教室などを開催していたが、今後はホーム独自の介護教室も開催する予定である。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時、職員でどのようなサービスを提供していきたいのかを話し合い、地域密着型としての特性をもち込んだ事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は職員会議や日々の話し合いの場において、理念の主旨を介護計画と結びつけて、職員一人ひとりが理解できるように説明・指導している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議などを通して地域の方へホームについて理解していただいております。地域の敬老会や小・中学校の行事等に積極的に参加している。		現在は家族の方への介護教室は2ヶ月に一度開催しているが、来年度は、地域の方が気軽に立ち寄っていただけるような、ホーム独自の介護教室を開催する予定とのことであり期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の外部評価の結果を配布したり、自己評価を職員にもしてもらうなど評価の意義を理解してもらうとともに、職員の自己評価に役立てている。昨年の家族アンケート内容で、家族の理解が得にくい項目があったことに気づき、具体的に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に会議を開催し、民生委員や地域包括の職員、さらに入居者やその家族に対して、入居者の状況や行事内容、事故対策、苦情処理など詳細に報告し、そこで出された意見などをサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地区の行政が開催する研修(認知症実務者研修会、虐待、介護保険制度等)に積極的に参加したり、法人が開催する勉強会に行政の方に講演していただくなど、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるように支援している	権利擁護に関する研修会等に積極的に参加したり、後見人制度が必要な場合は相談窓口を紹介するなどし、申請の支援をしている。実際に1名申請中であり、3名が利用している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、個々の入居者の家族へ、写真つきの手紙を送り、担当の介護・看護職員から最近の暮らしぶりや医学的な情報、担当者の交代などの情報を知らせるように心がけている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの各階玄関に、苦情ボックスを設置している。また、年1回の家族会や面会の際に、管理者だけでなく担当職員が直接家族と話をする機会を設け、家族の意向を聞いている。苦情があがれば、その都度理事へ報告し、会議等に取り上げるなど迅速に対応し、職員教育を心がけている。また、広報誌に載せたり、掲示するなどしてその結果を報告している。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	夜間の勤務体制等の都合もあり、計画作成担当者以外の職員は各階を兼務している。そのため日頃から、情報を共有し顔なじみの関係になるような体制をとり、入居者への影響がないように心がけている。また、職員からの要望をあげてもらい、ストレスがたまらないように配慮し、スキルアップ研修会などへの参加を勧めている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢幅(20~60才代)も広く、男女とも採用し、特にその人柄や意欲等で判断している。各職員のやりたいこと、希望などを聞く機会を設け、本人の能力向上に努めている。(資格取得や研修会参加等)		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育等に関する勉強会をホームで行ったり、法人内の委員会・研修会、法人外の研修会に参加するなどし、職員への啓発を行っている。特に、入居者への関わり方に目を向け、その都度、教育を行っている。		
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員に対して、平成19年度から新たに「基本介護チェック表」を用いた教育プログラムを実施している。自己チェック表を用い、指導者が1ヶ月間ほどかけてきめ細やかに新人指導をしている。また、他施設との交換研修も実施している。		
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の地域密着型に関する研修会やグループホーム連絡協議会へ参加して情報交換を行い、サービスの向上に努めている。		
<b>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、ホームの雰囲気・サービス・職員等に慣れるように、グループホームのショートステイやデイサービス利用を積極的にしてもらっている。利用期間で判断するのではなく、利用者が慣れたのを目安に入居時期を決めるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活全般において、入居者と一緒に考えたり、教えていただくなど、共に楽しむ姿勢で関わっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に家族からこれまでの暮らし方・好み・性格・大切にしているものなどを情報収集し、「生活歴」用紙に整理し、希望や意向の把握に努めている。平成19年度からセンター方式「できることできないことシート」を導入したことで、より細かなアセスメントができるようになり、職員の意識も向上している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式のアセスメントシートを取り入れ、本人・家族から情報収集を行い、本人の視点から介護計画を作成している。入居後1ヶ月は、暫定プランを作成し、職員会議やケースカンファレンスなどでその計画の評価を行い、そこで出た意見を取り入れ介護計画を修正している。その後、家族の同意を得ている。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人の状態・介護保険更新に合わせて(最大1年間)、介護計画の見直しをしている。入退院など状態に変化があれば、その都度見直しを行い、新たな計画に修正している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居前に家族と話し合い、グループホームのショートステイやデイサービス利用を勧め、スムーズな入居を心がけている。また、かかりつけ医である理事がこまめに医療的な相談に対応し、事業所の多機能性を活用している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望に応じて主治医を決定し、定期的に診療が受けられるように、情報提供や介護タクシーの手配などを行っている。また、かかりつけ医の理事長だけでなく、それ以外の主治医からの往診も受けることができる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人が医療機関、管理者が看護師であり、デイサービスの看護師のサポートも受けられる医療体制の充実したホームである。「看取り指針・同意書」も明文化され、介護職員もそのような入居者が出たならば、支援したいという意向もある。		看取りの指針はあるが、まだその経験がない。今後、対象者が出たときに速やかに対応できるように、研修やマニュアル作りなどの取り組みに期待したい。
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護に関して勉強会を開催し、プライバシー保護について考慮している。また、職員から誓約書を取り、記録の保管などについて配慮しながら業務にあたっている。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の会話や問いかけにより、着替え、献立、外出、入浴など一人ひとりの意向をくみ取り、その日をどう過ごしたいか、何をしたいかについて話し合い、実現できるように計画を立てて支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士が一人ひとりの健康状態に合わせて献立を立てているが、入居時に行った嗜好調査結果や、その後変化する本人の嗜好に合わせて、メニューの変更や、機能低下などに応じた配慮をしている。準備、食事、後片付けは無理強いにならぬように職員と一緒にいき、その状況を側で見守り、さりげない声かけや手助けをしている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の体調・気分・家族・かかりつけ医の意見を聞き、入浴の回数や時間を決めている。機械浴、床暖房(脱衣場・浴室)・暖房など設備が充実しており、健康面にも配慮された環境である。入浴拒否が多い場合は家族や職員の協力のもと、声かけやタイミングの見極めに努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	「生活歴」用紙を活用し、本人の興味のあることを職員が共有し、持っている力を最大限に活かし、自分らしく暮らせる場面作りを心がけている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	常時一人ひとりの希望に沿うことは難しいが、家族の協力もあり、個別の外出や少人数の外出を取り入れている。体力的に困難な場合は、ホーム内のテラスでティータイムを楽しんでもらっている。		できる限り心がけており、写真などで家族に報告しているが、外出支援の取り組みに関しては、家族の方にさらに理解を深めていただけるような工夫やアプローチに期待する。
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関の施錠は行っていない。日頃から職員が注意し、チャイムや目視により、職員が素早く気づき、対処している。外に出ようとするときは、他の階の職員と協力している。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防職員の立会いのもと、避難訓練を実施している。スプリンクラー、自家発電などの設備が整っている。防火リーダー研修にも毎年、職員が参加している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成したバランスのよいメニューである。また、能力に応じて刻み・ミキサーに変えたり、食材を変更するなど考慮している。水分・食事量は毎回チェックし、栄養管理に役立っている。検査結果などに異常があれば、主治医や栄養士に相談し、治療食にも対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に窓も大きく、自然光がよく入り、明るく、木を使用したぬくもりを感じる空間で、安心してくつろげる作りになっている。臭いもこもらないように換気を心がけ、加湿器や空気清浄機などを置いて温度や湿度も管理している。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族にお願いし、使い慣れた家具・アルバム・裁縫道具などを持参してもらうようにしている。居室のスペースも十分あり、大きな家具を持ってきても、狭さを感じない空間が保たれている。		